

観 光 交 流 拡 大 対 策 特 別 委 員 会 記 録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">開 会 午前 10 時 59 分 平成29年 3月14日 閉 会 午前 11 時 58 分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">観光交流拡大対策特別委員会室</p>	
3 出席者	委 員	<p>委員長 駒 田 誠 副委員長 平 岩 正 光 委 員 玉 田 和 浩 尾 藤 義 昭 伊 藤 正 博 足 立 勝 利 伊 藤 秀 光 野 島 征 夫 脇 坂 洋 二 太 田 維 久 国 枝 慎 太 郎 山 田 優 布 俣 正 也 中 川 裕 子</p>
	執 行 部	<p style="text-align: center;">別 紙 配 席 図 の と お り</p>
4 事務局職員	<p>係長 佐 橋 誠 主事 後 藤 有 里 加</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 最終報告について	原案通り
2 その他	

6 議事録

○駒田 誠委員長

ただいまから、観光交流拡大対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、最終報告となる提言について協議いただくため、開催したものである。

当委員会は、所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだ上で調査検討を行い、2年を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指してきた。

提言は、委員会の調査結果に基づくものであり、本会議における最終報告は、提言の内容を抜粋して行いたいと思う。

本日協議いただく提言案については、あらかじめ配布させていただいたとおりであるが、何か意見はないか。

○太田維久委員

観光資源を市場化し、地域にお金が回る仕組みを構築することは重要。京都では、観光客は増加したが、税収や雇用につながっていないという指摘がなされているところ。

地域でお金を回すには、土産物を県内で製造することや、観光産業の従事者を地元で雇用していくことが必要。観光をものづくりや農業とも一体となった総合産業として捉え、商工労働部や農政部とも連携しながら観光振興を進めていただきたい。

中部広域で取り組む昇龍道は、海外からの評価も高い。この広域連携の中で、岐阜県の役割や立ち位置はどうあるべきかを意識し、他県との競合ではなく、お互いのセールスポイントを尊重しながら取り組みを進めていただきたい。

○小原観光国際局長

食事や土産物などの原材料を県内で調達し、また、県内で労働力を確保し雇用をふやしていくことが、観光産業の基幹産業化であり、今後も引き続き取り組みを進めていきたい。

昇龍道は好評で、特に香港向けでは、昇龍道をめぐるツアーが造成されている。他県とは競争の面もあるが、それぞれの役割を認め合い、切磋琢磨しながら進めていきたい。

○山田 優委員

岐阜羽島駅は、重要な交通の要所である。観光誘客を進める上で、この岐阜羽島駅をどう生かしているのか。

○小原観光国際局長

本県を訪れる外国人観光客は、中部国際空港からよりも、羽田空港や成田空港から入国し、新幹線を使うケースが多い。こうした状況から、岐阜羽島駅は本県への重要な玄関口と捉えており、その活用を考えていきたい。

○山田 優委員

首都圏・関西圏からの観光客はふえているのか。

○小原観光国際局長

北陸新幹線が開業し、高山本線伝いに東海道本線と南北につながったこともあり、首都圏からの観光

客がふえている。

○山田 優委員

新幹線を最大限に活用していけるよう、JR等への働きかけを続けていただきたい。

○脇坂洋二委員

昇龍道というネーミングは、アジア向けにはよいが、欧米には受けが悪いと聞く。欧米に向けては、ジャパンセンターロードなど、名前を変えてプロモーションを行うとよいと思う。

○小原観光国際局長

本県は、欧米、特にスペインとイタリアからの観光客数が全国5位と近隣に比べ多くなっており、飛騨高山や白川郷、馬籠宿の知名度は高いと考えられる。欧米に向けては、こうした人気観光地の知名度を利用したプロモーションを展開していきたい。

○布俣正也委員

県として、高山本線の増便と北陸新幹線とのつなぎの改善を強く訴えていただきたい。

○小原観光国際局長

路線の運営がJR西日本とJR東海とで分かれているため、うまく連携がとれていないことが現状としてある。引き続き、JR各社に対して強く要望していきたい。

○伊藤秀光委員

本委員会で「小坂の滝」を知り、実際に訪れ、そのすばらしさに感動した。「小坂の滝」をジオパークに申請する動きはないのか。

○小原観光国際局長

ジオパークに関しては、環境生活部の所管になる。観光国際局としては、「小坂の滝めぐり」を「岐阜の宝もの」に認定し、ガイドの育成やPRに努めてきたところであり、現在は、地域主導によるプログラムが定着してきている。

○国枝慎太郎委員

提言の中で、平成27年の外国人宿泊者数が93万人と77万人の2通りの数値が使われているが、この違いは何か。

○堀観光企画課長

93万人は延べ宿泊者数であり、77万人は実宿泊者数である。

○駒田 誠委員長

延べ人数と実人数が混同するとわかりづらいので、整理させていただく。

○足立勝利委員

欧州でのトップセールスの成果として、多くの外国人が本県を訪れていると思うが、実際の来訪者からの評価はどうか。

○小原観光国際局長

トップセールスを行ったフランスやイギリスからの宿泊客数の全国順位も高く、この順位が評価の表れと認識している。この評価に満足することなく、引き続き旅行博出展等のプロモーションを行ってきたい。

○平岩正光副委員長

県は、各地域が観光資源を磨き上げ、市場化を進めていく取り組みを支援し、これらの地域をつないでいくことで、観光産業の基幹産業化に向けて着実に進めていただいていると評価している。

トップセールスは、事前の仕込みや事後のフォローアップなどが岐阜県独自のものとして、新聞やビジネス誌でも高く評価されている。今後もさらに取り組みを進めていただきたい。

リニア中央新幹線や東海環状自動車道西回りの整備は、ともすれば通過型で終わってしまうリスクがある。こうした交通インフラの整備により、移動時間が短縮される分、滞在時間を延長し消費拡大につながる取り組みを進めていただきたい。

○小原観光国際局長

例えば、東海環状自動車道西回りでは、開通を見据え、三重県と連携した取り組みを開始したところであり、交通インフラが完成した時点で受け入れ体制づくりができていよう、前もって準備を進めていきたい。

○駒田 誠委員長

意見も尽きたので、案のとおり提言を決定したいと思う。

本会議における最終報告は、提言の内容を抜粋して行い、その文案については、正副委員長に一任いただきたいと思うが、これに異議ないか。

(異議なしの発言あり)

○駒田 誠委員長

議題については以上であるが、せっかくの機会であるため、委員の皆さんに、当委員会の2年間の活動について、感想を一言ずつお聞かせいただきたい。

○中川裕子委員

岐阜市以外の観光資源を知るよい機会であった。観光客の新規獲得と合わせて、リピーターをどうふやしていくかを考えていく必要がある。

○布俣正也委員

「長良川おんぱく」に倣い、飛騨市でも地域資源を生かしたプログラムの提供を開始した。こうした取り組みを通じて、地域が主体性を持つという意識を定着させていく必要がある。

○山田 優委員

外国人観光客は日本人のおもてなしの心に魅力を感じている。こうしたおもてなしがリピーター獲得にもつながっていくものとする。

○国枝慎太郎委員

観光産業を持続可能な産業としていくためには、税金や雇用につなげていく必要がある。

○太田維久委員

観光を総合産業に育てていくために、部局を横断して取り組んでいただきたい。インバウンドについては、為替などのリスクも念頭に置きながら取り組んでいくべきである。

○脇坂洋二委員

大多数を占める国内観光客への取り組みが重要である。お金を持っている年配者などをターゲットに、

お金を落としてもらうことを念頭に取り組んでいただきたい。

○野島征夫委員

県が観光振興に注力していることは、市町村の励みである。また、トップセールスは、その効果が将来、必ずあらわれてくるので、今後も大いに進めていただきたい。

○伊藤秀光委員

海外では、少額の買い物でもクレジットカードを使う習慣がある。クレジットカード対応やWi-Fi環境など、外国人が訪問しやすい環境を順次整備していただきたい。

○足立勝利委員

山田優委員の発言のとおり、日本人の親切さは、海外誘客において売りになる。日本は祭りの宝庫でもあるので、各所の祭りを見せるということも有効である。

○伊藤正博委員

東海エリアは、ものづくりが盛んであり、かかみがはら航空宇宙科学博物館を初め、この地域ならではの飛行機や自動車などを産業観光としてPRしていく施策も考えていただきたい。

来訪者にお金を落としていただくためには、土産物が必要で、岐阜県ならではの土産物の開発を民間とも連携しながら進めていただきたい。

○尾藤義昭委員

先日、私がお迎えしたイスラムからの観光客が、戒律を守って、一切食事を受け付けないことがあって驚いた。戒律のある宗教では、こうした傾向があるのか。

○井深観光誘客課長

イスラム教では、豚肉を食することが禁止されているが、この戒律をどこまで守るかは、国や地域、個人の考えによって異なる。イスラム教徒であっても、せっかく日本に来たということで、柔軟に捉える方もいる。宗教のほか、嗜好やアレルギーなど、ニーズは多様なため、観光客に選択していただけるよう、各店舗での対応の柔軟性を開示することが重要。県としては、対応についてのアドバイスをいただくため、ムスリムの旅行会社を招聘している。

○玉田和浩委員

ここ数年のインバウンドの急増は、トップセールスによるところが大きいと思っている。現地の大使公邸を使ったプロモーションなどは、古田知事ならではの、他県にはできない取り組みであり、今後も進めていただきたい。

現在の観光客は、高山と白川郷に集中しているため、世界遺産などをうまく活用して、各地に分散させていく仕組みが必要である。

○平岩正光副委員長

岐阜県の知名度は上がってきているが、さらに高めていくことを念頭に、取り組みをステップアップさせていただきたい。

外から観光客が集まることで、地域に自信が芽生え、活性化につながっていくということで、観光振興を大いに進めていただきたい。

○駒田 誠委員長

高山本線に乗ると、日本語が通じない外国人が多く見られ、言葉の対応の重要性を実感している。また、伊藤秀光委員の発言のとおり、クレジットカードへの対応が不可欠。現在は、カードリーダー等の機器や手続きも手軽になってきており、各方面で事業者に勧めてもらえればと思う。

○駒田 誠委員長

ただ今、これまでの委員会活動の感想を伺ったが、この際何か意見等があれば承る。
また、執行部の方で何かないか。

(発言する者なし)

○駒田 誠委員長

意見等もないので、これをもって本日の委員会を閉会する。

観光交流拡大対策特別委員会配席表

平成29年3月14日(火) 11:00～
観光交流拡大対策特別委員会室

桑田 観光企画課海外戦略室長	原 国際課長	堀 観光企画課長	崎浦 商工労働部次長	小原 観光国際局長	北川 観光国際局副局長	井深 観光誘客課長	古田 観光企画課歴史観光推進監		

入口

布俣委員	○		○	中川委員
国枝委員	○		○	山田(優)委員
脇坂委員	○		○	太田委員
伊藤(秀)委員	○		○	野島委員
伊藤(正)委員	○		○	足立委員
玉田委員	○		○	尾藤委員
		○	○	
		駒田委員長	平岩副委員長	